

事業コード	03080127			政策コード	03	政 策 名	新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略						
事 業 名	獣医療緊急検査体制整備事業			施策コード	08	施 策 名	その他施策						
				指標コード	01	施策目標(指標)名	その他施策関連事業						
部 局 名	農林水産部	課 室 名	畜産振興課		班名	家畜衛生班		(tel)	1808	担当課長名	畠山英男	担当者名	小原剛
評 価 対 象 事 業 ( 計 画 ) の 内 容										事業年度	令和02年度 ~ 令和02年度		

1．事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか) 国内において、C S F（豚熱）など家畜重要疾病が続発していることから、県内における迅速かつ正確な検査体制の構築が喫緊の課題となっている。また、万が一の家畜重要疾病発生時の防疫措置において、新型コロナ感染防止に配慮した作業の実施が不可欠である。					3．事業目的（どういう状態にしたいのか） 家畜重要疾病の迅速かつ正確な診断に必要な検査機器を整備するとともに、防疫対策に必要な資材を確実に備蓄し、本県の家畜衛生対策強化と畜産物の生産性向上を図る。				
					(重点施策推進方針との関係) 重点事業として要望 その他事業として要望				
4．目的達成のための方法									

2．住民ニーズの状況 ニーズを把握した対象 受益者 一般県民 （時期： R02 年 08 月） ニーズの把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の手法 （具体的に） ニーズの具体的内容 生産者からは機器整備による検査時間の短縮など、検査の効率化が望まれている。また、家畜重要疾病発生時には、防疫作業員の新型コロナ感染防止対策も重要であり、十分な量の防護服やマスクなどの防疫資材が必要である。					事業の実施主体 県				
					事業の対象者・団体 県内畜産農家				
					達成のための手段 修理不可で不具合を来している検査機器および耐用年数を経過している検査機器の更新。防疫対策に必要な防疫資材の備蓄。				

5．事業の全体計画及び財源					単位(千円)				
把握してない場合の理由及び今後の方針									
理由									
今後の方針									


5．事業の全体計画及び財源										単位(千円)
順位	事業内記	左 の 説 明	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	全体(最終)計画	
01	検査機器等整備事業	家畜疾病診断に係る検査機器等の整備及び防疫作業の為の防疫資材の備蓄	28,449	0	0	0	0	0	28,449	
財源内記		左 の 説 明	28,449	0	0	0	0	0	28,449	
国庫補助金		新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	28,449	0	0	0	0	0	28,449	
県債			0	0	0	0	0	0	0	
その他			0	0	0	0	0	0	0	
一般財源			0	0	0	0	0	0	0	

6．事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果	獣医師の診断に関連して、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生が無く、安定かつ効率的な家畜伝染病診断が行われる								
指標	指標名	獣医師における新型コロナウイルス感染症クラスター発生数						指標の種類	
	指標式	獣医師の診断に関連して、新型コロナウイルス感染症の患者が複数発生し、保健所からクラスターの発生と定められた回数						成果指標 業績指標	
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指 標	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	最終年度
	目標a			0					0
	実績b			データ等の出典					
	東 北			畜産振興課調べ					
	全 国								
把握する時期		当該年度中 03 月		翌年度 月		翌々年度 月			
指標	指標名	C S F 等の高精度検査機器の設置数						指標の種類	
	指標式	北部家保：3 機種      中央家保：6 機種      南部家保：2 機種						成果指標 業績指標	
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指 標	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	最終年度
	目標a			11					11
	実績b			データ等の出典					
	東 北			畜産振興課調べ					
	全 国								
把握する時期		当該年度中 03 月		翌年度 月		翌々年度 月			
指標を設定することができない場合の効果の把握方法									
指標を設定することが出来ない理由									
見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)									
事業の必要性									
現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性									
迅速な診断や検査の効率化・精度向上は、生産者の要望に応える上でも欠かせない。また、家畜重要疾病発生時の防疫作業には防疫作業員の新型コロナ感染防止対策が不可欠である。									
住民ニーズに照らした事業の必要性									
最新の検査機器の整備による検査時間の短縮は、生産者ニーズに合致するほか、検査精度が向上することで、獣医師の診断も容易になる。また、ウィズコロナの状況においては、感染拡大防止に配慮した防疫作業の実施が必要である。									
事業の県関与の必要性									
法令・条例上の義務      内部管理事務      県でなければ実施できないもの									
民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの									
家畜伝染病予防法に基づき、家畜疾病の診断およびまん延防止対策は都道府県が実施しなければならない。									

政策評価委員会意見		重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定	
		重点事業      その他	